

田中尚行氏

株式会社中央ジオマチックス 代表取締役 CEO

培った技術を武器に、 地図の新時代に挑む

地図調製業界において、早くから GIS の活用に取り組むとともに、小誌の活動に対しても創刊以来熱心に支えてきていただいている株式会社中央ジオマチックスの田中尚行社長を訪ね、新たなマップビジネスの展開についてお話しいただいた。

紙とデジタルを両輪に

田中社長 創刊 50 号、おめでとうございます。よくぞ続いた、と言っておきましょう。(笑)

— ありがとうございます。創刊以来のご支援のおかげです。

田中社長が就任されて、社名を中央地図株式会社から株式会社中央ジオマチックスに改め、決意を胸に新たな地図ビジネスに打って出られたのが 2002 年。ちょうど小誌の創刊と同じ年のことでした。あれから地図をとりまく状況も大きく変化しましたが、田中社長の挑戦は今、どんな地点にあるのでしょうか。

田中社長 従来型の地図調製ではない、GIS も活用した次世代の地図サービスを引き続き積極的に追求しています。同時にここ数年、紙の良さ、印刷図の良さというものが見直されてきた流れがあると思います。東日本大震災に続いて豪雨や火山の災害が続いていますが、命を救い、暮らしを励ます活動を支えているのは紙の地図です。全体を俯瞰でき、すぐに書き込みができる紙地図の性質は、やはり重要なのです。ですから私たちは、デジタル地図と紙地図とを車の両輪として、それぞ

れに新たなニーズを取り入れた事業を展開しています。

高く評価された防災アプリ

— デジタル地図の分野では、スマートフォン向けの防災情報アプリの制作に取り組んでおられますね。昨 2014 年、モバイル部門の電子国土賞を受賞した下田市津波ハザードマップアプリは、オフラインでも地図が使えるほか、標高の表示や目的地までの誘導など、さすがによく考えられているサービスだと感心しました。多くのハザードマップを手掛けてきた経験が生かされていますね。

田中社長 ありがとうございます。自治体向けの防災アプリ制作には目下、力を入れていて、下田市のほかにも東京都の小平市、狛江市、墨田区などに提供してきています。誰もがスマートフォンを持ち歩く時代ですから、それを活用して、いざというときに手元に見やすい地図を送ってあげるというのは必要なサービスだと思っています。

工夫が光る多言語マップ

— 他方、紙地図でもユニークなものを作っておられますね。たとえば、多言語マップ。上尾市の英語版のガイドマップを拝見しましたが、きれいで見やすいですね。英語版といっても、日本語を単純に英語に置き換えればできるわけではないはずです。注記の置き方や色なども言語の特徴に合わせて工夫されていました。

<プロフィール>

1979年 3月 明治学院大学経済学部卒
4月 大日本印刷株式会社市ヶ谷事業部入社
1994年 2月 中央地図株式会社入社
同 取締役企画室長
1998年 11月 中央地図株式会社 代表取締役
2002年 11月 株式会社中央ジオマチックスに社名変更 代表取締役
2013年 5月 一般社団法人地図調製技術協会 業務執行理事

田中社長 その通りです。多言語マップは、英語版以外にも中国語版やハングル版を作りました。それぞれに見やすいデザインを考えて、工夫しています。2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、地図の多言語化のニーズも増えていくでしょうから、実績を積んでいきたいと思っています。

技術と人材こそ強み

— そうした地図づくりの業務以外にも、GISの開発・コンサルティングや空間データの構築など、多彩な業務を展開されていますね。

田中社長 はい。変化の激しい時代のなかで、地図もパーソナル化、コストレス化が急速に進んでいます。それに対して、いかに付加価値の高いものを提供できるかが勝負です。今、社員一人ひとりのいろいろな分野にわたる能力や得意分野を最大限に発揮してもらって、みんなでそれに挑んでいるところです。

— 中央ジオマチックスの強みは、そうした豊富な人材の活躍のなかに、蓄積されてきた地図づくりの技術がしっかり継承されていることだと感じます。

田中社長 やはり地図の表現法や彩色のノウハウなど長年育んできた地図づくりの技術こそが、新しい時代の地図文化を切り開いていく武器になるのだと思います。これからもこの武器をしっかり磨きながら、社是の「創意工夫」に励んでいきます。

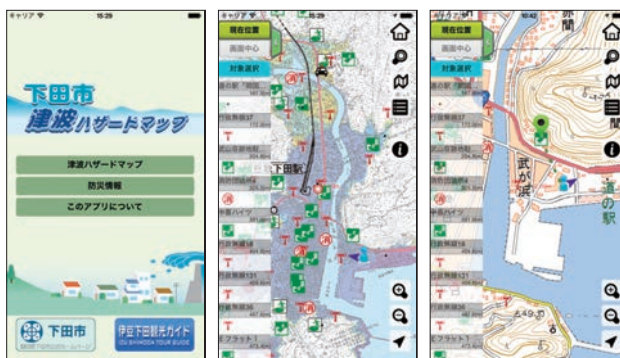


— と思っています。

— 最後に、小誌のこれからに対するご要望や注文などがありましたら、お聞かせください。

田中社長 これまでとは違った読者層をもターゲットにして、さらに認知度を高めていきましょう。SNSを活用したインタラクティブな情報発信や各種団体とのイベント共催など、取り組みの幅を広げることも必要かもしれません。そして、学会や業界団体などとは異なるスタンスで、今の時代の動きを斬新に、ダイナミックに伝えていきたいと思っています。

— 頑張ります。ありがとうございました。



電子国土賞を受賞した下田市津波ハザードマップアプリ